

寛政改革と柳樽の改版の増損と正誤

早稻田法學第五卷第六卷に掲載した本論文に付き、刊行後入手した材料に因つて増損を施すべき事項あり、又第四章各節に於て柳樽の編、丁、句の順を示す數字だけは其の校正を他人に一任し置きたるに、後に至つて夥しき錯誤のあることを發見した、爰に其の増損と正誤とを公にすると同時に、讀者に對し深く其粗漏を謝す。

其 一 増 損

○ 23 頁 14 行 日本紀とある次へ次の文を挿入す。

卷之二十八、天武天皇十四 (685) 年の條に、天皇大安殿に御し、王卿等を殿前に喚び博戲せしむ、とあり、又同卷之三十三

○ 28 頁 3 行 bols の訛の次に か又は ouro 黄金の意ならん の一句を加ふ

○ 28 頁 16 行 flor の訛? の次に pan 木? を加ふ

○ 83 頁 14 行 川柳にの續きを次の如く改む

川柳に次の如き句あり

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1 女湯の番は汐干の氣で座はり | 和二、義五オ |
| 2 女湯へ起きた々々と抱いて来る | IV 2 n°5 |
| 3 目の覺めた子を女湯へことづける | VII 40 n°15 |
| 4 女湯へ抱いて来るのは久し振り | V 26 n°4 |

- | | | |
|----|------------------------------|-------------|
| 5 | 女湯屋盛 ^も り砂ほどに捨て、置き | 和五、仁五オ |
| 6 | 女湯を〇〇きながらに小〇〇 | II 18 n°13 |
| 7 | 男湯へ行くうち〇用〇たず | 永八、松四ウ |
| 8 | 男湯へ這入る年かと母叱り | 永五、義三オ |
| 9 | 女湯の供の男は唐辛子 | 和二、仁二ウ |
| 10 | 男湯を女の覗く急な用 | III 26 n°18 |
| 11 | 女湯の方へ貼らせる血の薬 | III 33 n° 9 |

(注意 和は明和、永は安永、義、仁、松は萬句合の相印、オは表、ウは裏、尙萬句同に付ては第三章第二節第一項参照)

此等の句より推察すれば、必ずしも其全部が云云

○ 85頁 15行 五月を十月に改む

同 18行 であるが の^〇がの字より 20行 大體に於て^〇の^〇の字までの四十八字削除

同 19行 吉宗時代の前に 是より先き の五字を加へて別行となす。

○ 86頁 7行八行 削除、七行目より次の文に改む

と云ふ意味の禁制あり、寛政二(1790)年十月に、此れと其趣意を同うする左記の布告が発せられた(江戸軟派雑考371頁) 蓋し柳樽の改版を要したのは、此の布告が大なる原因であつたであらう。

『地本問屋行事共^{きやうじ}へ申渡

書物の件毎々より嚴敷申渡候處いつとなく猥に相成候何によ

らず行事改め候て繪本繪草紙までも風俗の爲に成らざる猥が
ましき事勿論無用に候一枚繪類は繪のことに候はゞ大概は苦
しからず尤も言葉書等有之候はゞよく々々是を改めて如何^{イカガ}な
る品は板行致させ申間敷候右に付き行事改めを用ゐざる者も
候はゞ訴へ出でらるべく候又改め方行届かす或は改めに洩れ
候儀候はゞ行事共越度たるべく候右之通相心得申すべく候尤
も享保年中申渡候趣き猶又書付にて相渡すべく候間此度申渡
候儀等相含み改め申すべく候

寛政二戌年十月二十七日』

十一月草双紙等に時勢の雑説等著述せし物賣買停止竝に版改
めの件に付き取締の法令を發布せらる(青本年表寛政二年の條)

○100 頁 末行 萬龍の次に 如露、如蓬、桃女後改圭女、の
三名を加ふ。

○101 頁 2 行 跋あり。に續けて、又大正十四年十月中、本
多溪花坊氏より借り受けて寫し取つた一枚摺に、酉（多分明和
二）年二月七日開き、春樂三評、川柳、机鳥、露丸、飯田町中
坂、錦組連、と云ふ珍品あり。

○101 頁 3 行 III の見出しの次の行に、右に關し、の四字
を加ふ

○101 頁 9 行の次に別行として次の文を加ふ

と記して置いた、然るに大正十五＝昭和元年十月中、岐阜
の梅溪岐川氏から臨寫本、同年十二月同氏の親友岡田義一氏か

ら原本、を借覽した丑年九月五日開きの分を初め、丑年と記した川柳評萬句合の中に、明和二(1765)年發行の柳樽初編にある句が十一あるを發見して、其丑は實曆七(1757)年の丑であり、川叟の萬句合の創刊が實曆七年であることの確證を得て、四十年近くの疑問を氷解し得たのは、全く右兩氏が斯界に貢獻せられた功績である。

○103頁 1行の初め、である、の次に加ふ(但し實曆七年八月のはまだ手元に無い)

○103頁 2行 居る。に續けて(又天明六年は八月十五日が初會)

○103頁 3行 初會と爲し の次ぎへ挿入(但し開きの日付き安永四未年信七末尾口上には廿^〇九日とあり)

○104頁 3行 形式でつた、の次ぎへ挿入(但し創刊の年たる實曆七年のだけは、十四字のが四句ある其の次に、五文字のが二句あつて、其の五文字の第二のには、上に×の印しがある)

○105頁 15行乃至18行削除、次の如く改む

寄句の多かつたこと、從つて勝句の多かつたことは、安永八亥(1779)年十月廿五日開き、十二枚板行相印禮、惣句高二萬五千二十四員、番勝句 660 員が筆頭、其の次は明和四亥(1767)年九月十五日開き、十枚板行相印義、惣句高二萬千四百十九員、番勝句 605 員、此れに次ぐは安永四未年十一月五日開き、九枚板行相印智、惣句高一萬八千六百二十二員、番勝句 493 員、此

れと殆ど同様なのが天明五巳(1785)年十一月五日開き、九枚板行相印智、惣句高一萬八千五百三十員、番勝句483員等である。

○ 106 頁 下より 5 行目 6 組^{くみ}の前に次の一文を加ふ。

前述相印が、創刊の年から斯く整然として居たか否かは、多年疑問として居る所であつたが、前記昨昭和元年臘月に獲た材料に因り、否定の解決に到達した、即ち寶曆七丑(1757)年十一月十五日開きの分は、二枚板行であるに拘らず、相印が無い、翌寶曆八寅年の分から斯く定まつたのである。

○ 113 頁 14 行の次に挿入

ふんどしに^{ぼうつき}棒突のいる佐渡の山 同

○ 124 頁 3 行 本文の配列は の次へ挿入 初丁の裏と二丁の表とに、句の頭の假字で、かきつはた、かほよはな、むかし
あとこ、うた、といふ順を取り、二丁の裏から十三丁の表までは、同じく句の頭の假字でいろは順となし、十三丁裏からは

下五を也で止めた句を集める等

○ 126 頁 36 枚の後へ追加 川柳評 347 句

○ 131 頁 下から 9 行

n°10 掛取の、句の行衛 XIX へ 12n°12 へ

○ 136 頁 下から 3 行 16n°10 の次へ追加 18n°18

" " 24n°3 の次へ追加 28n°11 同 n°12

" " 2 行 計13句 改計16句

○ 139 頁 11 行 ○21 削丁の中の句の行衛の知れた分

- n°1 姫の着換へる… X 28n°11へ
- n°2 不斷着で… X 28n°12へ
- n°4 ^{むご} 惨い事… X 18n°18へ
- n°9 縫習ひ… XIII 5n°16へ
- 140 頁 n12 ^{へオキ} 樊於期が首はの句の行衛 X 33n°11へ
- 141 頁 下から7行
- n°13 貴様とは… XVII 7n°5へ
- 142 頁 8行 同 n°6 の次へ追加 7n°5
- 145 頁 削丁¹⁰の句の行衛
- n°5 樽酒で… XXVIII 6n°17へ
- n°6 怠屈なもんだ… XXVIII 8n°5へ
- 146 頁 11行 同 n°14 の次へ挿入 37n°4
- 147 頁 8行 末尾及び九行訂正 33n°8
- 同 n°9 39n°1 同 n°2 計九句
- 149 頁 13行 同 n°4 11n°5 の間へ挿入 6n°15 8n°5
- 同 14行 n°9 の次へ追加 21n°9
- 同 15行 計15句 改 計17句
- 151 頁 下から5行と6行との間へ挿入
- 参考句 十五日の御残念を十四日 XXX 28n°17
- 152 頁 削句9の次に下記¹⁰を加へ、句の順位繰下げ
- 10 削 一に富士二に鷹の羽の夜討なり XIII 5n°16
- 改 縫習ひ譽めるとどつか持つて行き
- XII 21n°9

○ 153 頁 削句16(改17) 六十萬石…の出所 XXIV 12n°9

○ 153 頁 削句16(改17)の次＝下記ノ削句改挿句を加へ以下句順繰下。

18 削 改まりました大名女郎なり XIX 12n°12

改 掛取のあとへ廻すは丈夫なり V 14 n°10

○ 157 頁 9 行 末尾女郎の次へ挿入、又は禿に對する

○ 157 頁 削句12の次に、下記の句挿入、以下句順繰下。

13 削 腰^ぎ抜けの下女御白洲で五人指し X 33n°11

改 ^{ヘンオキ}樊於期^{キキ}が首は^{キキ}先に使はれる XII 37n°13

註 謠曲咸陽宮參照

○ 158 頁 5 行 淨瑠璃の三字を次の如く改む、常盤津將門
(忍^{シノブヨルコオノコトヨセ}夜孝事寄)

○ 162 頁 3 行又は壺ツ！の四字を2行振れ！の次へ挿入

○ 162 頁 下から9行10行を削り、次の如く改む

改 歌カルタ下女股倉へ取り溜める XXIII 23n°7

註 取つた札を膝の下へ押し込む

○ 165 頁 削句20の次に、下記削句改挿句を加へ、以下句の順位繰り下げ。

21 削 坪皿とバカー兩で取戻し X 28°12

改 不斷着で番頭えらい事をする XII 21n°2

○ 169 頁 6 行 思ひ切る姿の句出所 IV 13n°1

○ 172 頁 削句17の次に、下記削句改挿句を加へ、以下句の順

位繰り下げ。

18 削 間男は七五三を^し外^へづすと寄り附かず X 18n°18

改 惨^{むご}いこと羅綾^{ラリヤウ}の袖に鈴を附け XII 21n°4

○172 頁 削句元18改19の次へ挿入、句順繰り下げ

20 削 あつかひで村間男は五俵出し X 23n°11

改 姫の着換へるを覗くと縮むなり XII 21n°1

○173 頁 30改32の次に下の削句及び改挿句を加へ、句順繰り下げ

33 削 さんげ々々々間男を致しました XVII 7n°5

改 貴様とはもう々々いやと引立てる

XIV 24n°13

○173 頁 削句31改34の改挿句

改 母猪牙を上がつて三つ四つよろけ

XIV 24n°14

○175 頁 削句44改47の次へ追加

48 削 碁の留守を間男打つて替へにする

XXVIII 6n°17

改 樽酒であるのに内儀出す氣無し

XXII 10n°5

○188 頁 削句14の次の行に註を加ふ

註 空海上人巡錫の途次、上州世良田村で、百姓に芋を求められたのを拒んで與へなかつた、する

と其村の芋が全部石に成つた。

○ 188 頁 下から 4 行 註 未詳 を次の文に改む 註 楚の
 莊王賜宴の夜、偶ま燈火の滅したるに乘じ、宮女に戯れた^シ士が
 あつた、宮女は證據とする爲め、其士の纓(冠^エの緒)を切つて王
 に告げた、王は燈^ヒを點ける前に、總ての者に纓を切らせて士^シを
 救つた、渠はそれを徳として後大功を樹てた。参考句少々

明君は暗きに纓を斷ち切らせ

纓を皆切れと寛仁大度なり

皆纓を切つて官女の片明り

○ 188 頁 削句21の次に下記削改句を加へ、句順繰下げ、

22 削 いゝ寝顔見て居るうちに○なり

XXVIII 8n°5

改 怠屈なもんだと堅い川支え XXI 10n°6

○ 196 頁 下から 3 行目(12)の中、一に富士 の句削除

○ 200 頁 (11)の中 腰抜けの下女 削除

○ 201 頁 (14)改(15)の中、ヤ^デレ大^{タツ}かい工^{タツ}み の句削除

○ 202 頁 (32)改33の次へ挿入、句順繰下げ

34 座敷牢腰縄で出る十三日 V 3n°11

○ 204 頁 (20)の中 坪皿と…の句削除

○ 206 頁 (38)改39、他の者はの次へ挿入

喰^{ヤツ}積みを荒らすは勝負弱い奴 XV 4ln°11

○ 209 頁 (2)の次に下記二句を挿ミ、下から 2 行目の句削除

(3) ^{トド}度々の留守女房逆意を思ひ立ち X 35n°4

時は得難し留守のうち々々々々々

XXV 24n°3

○ 210 頁 1 行 (7) あつかいで… 削除

○ 210 頁 (11) の中 問男は^{シメ}七五三…削除

○ 214 頁 (33) 改36の中、基の留守を問男…、削除

○ 217 頁 (7) 轉ぶづ…の出所 XVII 17n°12

○ 218 頁 まつさをな…の出所 XXV 21n°14

○ 222 頁 三行の次に挿入

前○よ○合はせ好かねい生酔め XVI 15n°3

○ 222 頁 末行、いゝ寝顔、の句削除

○ 224 頁 2 行 夜が更けりや、は萬句合の辭、柳櫓には、
深更に、とあり

○ 224 頁 (14) さ○もせず、の次へ挿入

飛んだよく○○つた夢を小町見る

XXII 42n°5

其 二 正 誤

(行を示す数字の前に^〇下とあるは^〇下^〇から数へた行數)

頁 行 誤	正	頁 行 誤	正
1 9 1769	1786	〃 13 菖蒲 ^{カブト} 甲刀	菖蒲 ^{カブト} 刀甲
〃 12 1786	1787	61 15 刀物	刃物
〃 15 1786	1787	65 11 切捨ての前に岡田註の三字挿入	
6 13 佐野一門	田沼一門	69 4 但度三	但三度
〃 〃 人氣の	人民の	75 11 四六	四七
〃 17 神といを	神といふを	76 下1 おゐてたは	おゐては
7 15 模死	横死	78 下2 放籠	放籠
13 19 内允	内藏允	80 下2 掛かり	掛かり
14 5 糺町火	糺町出火	87 下6 觸	觸
16 13 物置く	物置へ	89 3 藤谷	藤原
18 3 紀井	紀伊	〃 下8 1526	1525
19 3 善左衛	善左衛門	97 下7 小濱	小濱
24 2,5,6 貴妃	貴妃	〃 下3 栗太	栗太
〃 17 其他	其地	99 11 川柳又も	川柳枯るれども
25 13 膝栗	膝栗	〃 〃 又も	又も
〃 16 第三章	第四章	〃 下5 十代	十二代
〃 21 四下 ^{シシタ}	四下 ^{シシタ}	103 末 下七と異つた	下七と辭の異つた
26 4 改制	改刷	105 11 二目行	二行目
〃 〃 六十の	六十二の	107 6 劍刊	劍刊
〃 5 四が	六が	111 3 同	似
27 9 葡萄牙人	葡萄牙人	〃 6 似	同
32 6 削せられ	削除せられ	〃 7 仕事軽く	仕事手軽く
33 17 第三章の	第四章第二節の	〃 〃 同	似
35 15 聞きはりつ	聞きはつり	〃 8 同	似
37 11 第四項	第五項	〃 15 同	似
38 16 ツクバ	ツクダ	112 11 似	同
42 6 強勉	勉強		
58 4 正月より	此四字削		

頁 行 誤	正	頁 行 誤	正
“ 13 同	似	140 9 n°2へ	n°1へ
“ 下1、2、5 同	似	“ 10 n°1へ	n°2へ
113 2、6 似	同	“ 11 n°10へ	n°11へ
“ 4、8、16、17、19 同	似	“ 下6 n°1へ	n°10へ
“ 12 ふなんとし	ふんとし	141 1 42n°5	42n°14
115 1 似	同	“ 2 n°6	n°15
“ 3 同	似	“ “ n°10	n°18
116 2 19 ャ	19n°16	“ “ n°11	n°19
“ 下8 不信	不言	“ “ n°12	n°20
119 11 久治郎	久次郎	“ 4 十四號	十四編
124 1 5枚半105句	6枚半116句	142 1 42n°11	42n°20
“ 5 626句	689句	“ “ 同n°12	同n°21
“ 8 26	27	“ 10 42n°12	42n°13
“ 13 巻首云	削	143 1 13n°6	13n°9
“ 14 26枚469句	33枚570句	“ 下8 26n°13	26n°12
“ 下4 41枚715句	42枚745句	144 1 33n°7	33n°16
“ 下2 40枚	41枚	145 9 XXII n°3	XXII 18n°3
125 7 九句詰九句詰	九句八句七句詰	“ 12 XX 13	XXI 12
“ 11 20508	20632	“ 14 30乙	30
132 7 VII 2	VII 3	“ 15 42n 5	42n°14
“ 16 伯父	祖父	“ 下8 29n°15	28n°15
133 5 10n°13	10n°7	“ 下4 42n°3	41n°8
134 3 24n°17	24n°16	146 4 12n°4	13n°14
“ 9 X30	X8	“ 11 同n°14同n°6同n°14 37n°4同n°6	
“ 下6 16n°16	16n°10	147 下8、7、6、5	
“ 下3 n°13	n°18	15、16、17、18 14、15、16、17	
135 下10 訓ミあむり	訓ミかあり	148 2 XVII 32	XVIII 32
136 4 IXあざの	IXあだの	“ 10 42n°10	42n°19
137 14 VIII? 4	VIII 34	“ 11 42n°9	42n°18
“ 15 エ、年	エエ年	149 5 計10句	計1句
139 17 容	客	150 3 連	連
“ 19 n°8へ	n°4へ	“ 10 n°19	n°18
“ 下4 日か	目か	“ 12 33n°9	33n°17

頁 行 誤	正	頁 行 誤	正
“ 下5 330句、末詳5	337句末詳6	165 2 V27	V37
“ “ 325句	331句	“ 下6 XV 13	XVI 8
152 10 XII 27	XII 37	166 6 XIII	XIII
“ 14 17n°17	17n° 14	167 下3 n°4	n°5
“ 15 XVIIIn°2	XV 11n°5	168 6 第三節	第四節
“ 下1 27n°11	37n°5	“ 7 n°1	n°15
153 8 第三項	第二項	“ 9 第三節	第四節
“ 9 本章第一節	本章第三節	“ 10 12n° 1	24n°1
“ “ 第一項に	第一項其一に	“ 11 22n°	22n°15
“ 下8 得々として	得々として	“ 12 27n°1	37n°1
“ 下1 XX 10	XXII 10	“ 14 17n°	17n°10
154 1 n°15	n°16	“ 下6 3n°2	3n°3
“ 4 斯 ^カ うしハラダ	斯 ^カ うしたハラダ	“ 下5 13n°3	13n°2
“ 8 XIII 24	XIII 42n°15	169 2 42n°7	24n°7
“ 10 24n°10	42n°19	169 16 VII 37	XII 37
155 8 30n°1	30n°2	“ 下6 35n°	35n°9
“ 15 漏れて	濡れて	170 4 n°70	n°7
156 1 34句	35句	“ 15 44句	43句
“ 下9 VIII 29	VIII 39	“ 16 I 間男	1 削 間男
157 下7 12n°4	42n°4	“ 17 44n°14	24n°14
“ 下6 VXII	XXII	“ 下3 n°13	n°10
158 9 n°14	n°17	171 15 VII 37	XII 37
“ 下1 n°8	n°18	“ 16 推の	椎の
159 下3 n°13	n°12	“ 17 IV 18	IV 13
160 2 n°9	n°6	“ 19 n°12	n°13
161 12 61句	62句	173 2 X 16	X 7
“ 16 第三節	第四節	“ 12 タケは	ヌケは
163 2 VI 17	VII 4	“ 下5 XVII 16	XVII 16n°3
“ 7 74	ス4	“ 下3 XVIIIn°10	XVII 39n°10
“ 9 IV 26	VI 26	174 5 斷ぞ	斷す
“ 11 20n°13	20n°12	“ 10 XX 16	XX 16n°13
164 2 3n°8	3n°9	175 1 29n°6	26n°9
“ 5 2n°9	2n°6	“ 8 第七項	第九項

頁 行 誤	正	頁 行 誤	正
'' 下8 第三項	第四項	187 5 XVI	XV
176 6 17n°8	17n°6	'' 14 14n°14	14n°13
'' 10 第三項乙	第四項其二	188 1 n°26	n°2
'' 13 XII 19	XI 19	'' 11 11	11n°9
177 6 26n°9	24n°6	190 7 ^{オサイ} 御榮殿女	^{ゴサイ} 御榮は殿女
178 2 41n°9	41n°15	'' 下7 第二項40	第四項44
'' 11 取り	^ヨ 捨り	191 2 刈るに	剃るに
'' 13 XX 13n°7	VI 24n°18	'' 下9 n°10	n°16
'' 17 第六項5	本節第八項5	192 下7 IV	VI
179 13 餘に目	慾に目	193 3 XI	XII
'' 15 14n°14	14n°17	'' 13 XXVII 33	XXVIII 34
'' 16 7n°17	7n°15	'' 15 正宗 『極樂	正宗分『極樂
180 7 2乙 n°6	27乙 n°6	'' 下9 n°17	n°18
'' 10 11	11n°6	'' 下4 n°2	n°1
'' 12 13	13n°9	'' 下1 信三	梅三裏
'' 下4 33n°7	33n°17	194 4 VIII n°17	VIII 41n°17
'' 下3 XX 3	XX 2	'' 下8 23n°9	21n°9
'' 下1 XIII 39	VIII 39	'' 下5 XXII 9	XXII 9n°17
182 7 ものだ	もんだ	'' 下1 く、第二節	く、本章第二節
'' 12 XYV	XXV	195 11 前章	本章
'' 下6 握り	握ミ	'' 下7 XXI	XVI
183 1 テカイ	テカイ	196 9 3n°6	30n°14
'' 9 n°9	n°6	'' 13 27	25
'' 10 XVIII	XVII	197 7 23	33
'' 16 34	24	'' 11 24	42
184 16 n°16	n°15	'' 下8 n°18	n°16
'' 17 續いた	續いた	'' 下4 n°1	n°6
185 7 ス12	ス12n°7	198 4 第五節	第三節
'' 8 尼なつて	尼となつて	'' 下2 n°16	n°14
'' 下4 1つ種	1つ程	'' 下1 n°13	n°12
186 3 XXIN	XXIV	199 6 n°10	n°9
'' 9 n°2	n°3	'' 下6 n°12	n°11
'' 10 n°10	n°17	'' 下5 n°10	n°9

頁 行 誤	正	頁 行 誤	正
" 下4 n°7	n°9	206 5 XVII	XVI
200 12 n°9	n°8	" 7 XXII 86	XVII 36
201 5 18n°17	22n°2	" 8 XXIII n°5	XXIII 33n°5
" 13 n°40	n°4	" 14 VII 32	XV 32
" 下4 n°13	n°18	" 下3 VII 3	XII 3
202 9 XXII	XII	" 下2 1(n°3	16n°9
" 下8 n°14	n°13	207 5 34	32
" 下6 n°2	n°4	" 12 1 n°1	21n°10
203 11 VIII	VII	" 16 XI	IX
" 13 XI	VI	" 17 3n°13	42n°5
" 下6 VII	XII	" 18 42	3
204 1 VI	XV	208 3 VII	XII
" 4 XIV	XIX	" 6 VI	IV
" 5 XVII	XVIII	" 8 すぐ骨	すぐ骨
" 8 X	V	" 10 41	42
" 9 IX	IV	" 13 XVI	XIX
" 11 VXII	XVII	" 14 江へ坪	えへ坪
" 12 XV	XX	" " n°18	n°17
" 14 XV II 43	XVII 45	" 16 n°13	n°12
" 下3 XIII 37n°14	VIII 37n°3	" 17 IX	IV
" 下2 XIV	XIX	209 2 XXII 6	XXII 28
205 1 XIV	XIX	" 8 n°16	n°15
" 2 XII	VII	" 9 煙を ^{ケム}	煙を ^{ケム}
" 3 X 37n°12	XIX 37n°3	" 11 15	19
" 4 XII 4	VII 7	" 16 XXIII 21	XVIII 24
" 5 XV	XX	" 17 n°4	n°16
" 6 IV	IX	" 23 m°3	n°3
" 8 35n°7	37n°8	210 5 さうと	さうよと
" 10 XVII	XXII	" 6 XXII n°12	XXII 12n°12
" 11 6n°6	6n°2	" 下3 XI	VI
" 12 泣くな	泣きな	211 2 致し	存し
" 15 n°18	n°12	212 9 XI	VI
" 16 喰はられぬ	喰はられぬ	" 13 XXVII	XXVIII

頁 行 正	誤	頁 行 誤	正
" 14 XIX	XIV	219 下8 XXV1II	
" 15 XIX	XIV	2 ² n°18	XIV 14n°4
213 10 V	X	220 5 n°15	n°14
" 12 VII	XII	222 下9 n°13	n°12
" 15 n°10	n°3	" 下5 XVII n°2	XVII 42n°2
" 下3 n°12	n°9	223 2 XXVIII 10	XXVII 12
" 下2 XII	VII	" 下4 n°9	n°6
214 3 XII	XIV	224 7 御用見る	
" 7 n°16	n°15	II n°9	御用 ^わ 見II9n°9
" 下3 XVI	XXVI	" 10 XIX	XXI
215 2 XXII	XVII	" 下7 n°18	n°14
" 4 XX1 25n°1	XIV 25n°6	" 下1 ^わ き初め	病み初め
" 6 IV	IX	225 9 XIII n°8	XIII 10n°8
216 1 XII	VII	" 11 XXIV n°6	XXIV 11n°6
" 9 X	V	" 下5 38	35
" 15 n°5	n°1	226 1 n°11	n°3
" 下4 n°11	n°8	" 下2 n°18	n°13
" 下3 n°17	n°11	227 1 賑 ^や では	賑 ^や 過ぎても
217 2 及XVII	及XVIII	" 5 不届な	不届きき
" 13 17	18	" 10 XXIX n°14	XXIX 13n°14
" 下7 n°14	n°4	" 15 n°19	n°18
" 下2 38	38	" 下5 [ぎ ^や]に	に[ぎ ^や]
218 7 IX	IV	" 下4 XXII n°1	XXII 30n°1
" 13 24	24	228 3 n°4	n°14